

1. 事業の位置付け

事務事業名	サポートファーマー育成事業		
事業担当	経済部 農水産課		
予算科目	01-060103-040000	事業種類	○ ハード ● ソフト
総合計画の位置付け	04	基本目標4 活力とにぎわいに満ちたまち	
	03	③〈新しい芽〉 リーダー、後継者が育ち活躍できる環境をつくる	
	02	2 新しい価値観や豊富な行動力をもった担い手が、継続的に育成されるしくみをつくる	
根拠法令等			
対象・受益者	平塚市民	事業期間	
委託、協働	【委託： <input type="checkbox"/> 3セク・財団 <input type="checkbox"/> 企業 <input type="checkbox"/> NPO <input type="checkbox"/> その他】 【協働： JA湘南 】		
目的・目標		事業の概要	
農業者以外の市民が農業に従事できるよう、農業技術研修などを実施することにより、援農組織へ登録する援農者や新規就農者などの担い手が育成されています。		農業の担い手の育成のため、研修農場で作付け、肥培管理、収穫などの農業技術研修を開催します。	

2. 事業の検証

活動指標①	指標名	サポートファーマー研修会開催回数						単位	回
	説明・算定式	-							
		平成17年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	
	目標			47	47	47			
	実績			44					
活動指標②	指標名							単位	
	説明・算定式								
		平成17年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	
	目標								
	実績								
成果指標①	指標名	援農者数						単位	人
	説明・算定式	研修会修了後、援農組織などへの登録者数							
		平成17年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	
	目標			10	10	10			
	実績			11					
成果指標②	指標名							単位	
	説明・算定式								
		平成17年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	
	目標								
	実績								
進捗状況	①：予定どおり								
	遅れている理由								
平成19年度の主な取組と成果									
農家の高齢化や後継者不足が進行する中で、定年退職者や農業に興味がある市民を対象に農業研修を実施し、農作業の手伝いや遊休農地を解消するなど援農活動をする新たな担い手の育成に寄与することができた。19年度卒業生20名のうち、11名がJA湘南のサポートバンクに登録した。									
平成19年度の検証結果	A：成果があがった								

事業分析	項目	分析の視点	左記の視点に関する分析・課題の抽出	総合評価
	必要性	<input checked="" type="checkbox"/> 市民ニーズ <input type="checkbox"/> 事業目的の達成状況 <input type="checkbox"/> 市の関与の必要性 <input type="checkbox"/> その他	定年退職者や農業に興味のある市民にとって、専門的な指導のもと一年間をとおり、指導が受けられることは、食の安全性も含め、研修の参加者数から判断すると市民ニーズが高い。	● 高 ○ 低
	有効性	<input type="checkbox"/> 上位施策への貢献 <input checked="" type="checkbox"/> 市民満足度を高める方策 <input type="checkbox"/> 継続による成果向上の可能性 <input type="checkbox"/> その他	研修会の受講により専門的な知識、農家としてのノウハウを習得できることから、有効性が高い。	● 高 ○ 低
	妥当性	<input type="checkbox"/> 事業の目的、対象、内容 <input checked="" type="checkbox"/> 受益者負担、補助額 <input type="checkbox"/> 業務の執行体制(人員配置、業務分担) <input type="checkbox"/> その他	参加者より年間、8000円の負担金を徴収し、市で借用している土地の使用料に充当している。	● 高 ○ 中 ○ 低
	効率性	<input type="checkbox"/> 業務プロセス改善による効率化の方策 <input checked="" type="checkbox"/> コスト削減の可能性 <input type="checkbox"/> 事業手法(民活の余地、事業形態の検討) <input type="checkbox"/> その他	収穫した種や苗等を翌年度用に保存し、経費の削減を図る。	● 高 ○ 中 ○ 低
今後に向けた課題の分析 研修内容の充実と、卒業生のフォローアップが今後の課題である。				

3. 年度別事業内容・事業費

(単位：千円)

		平成17年度 決算額	平成18年度 決算額	平成19年度 決算額	平成20年度 予算額	平成21年度 計画額	平成22年度 計画額	平成23年度 計画額
事業内容				研修会の開催、援農ボランティア制度の検討	研修会の開催、援農ボランティア制度の創設	研修会の開催、援農ボランティア制度の周知		
財源内訳	国庫支出金	0	0	0	0	0	0	0
	県支出金	0	0	0	0	0	0	0
	起債	0	0	0	0	0	0	0
	その他 特財	0	0	86	186	186	0	0
	一般財源	0	0	378	777	796	0	0
事業費 (A)		0	0	464	963	982	0	0
執行率 (%)		0.00	0.00	47.25				
内訳	職員 (人)	0.00	0.00	0.65	0.65	0.65	0.00	0.00
	再任用 (人)	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
人件費 (B)		0	0	5,455	5,455	5,455	0	0
フルコスト (A+B)		0	0	5,919	6,418	6,437	0	0

4. 今後の事業展開 (担当課としての提案)

平成21年度の事業の方向性	
<input checked="" type="checkbox"/> 現状の規模で継続 <input type="checkbox"/> 拡大して継続 <input type="checkbox"/> 縮小して継続 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 終了 <input type="checkbox"/> 他事業と統合	
<判断理由> 農業従事者の高齢化、後継者不足が進行する中で、農業者以外の市民に補助的労働力として協力していただくため、継続的に本事業を開催し、将来援農活動ができる新たな担い手を育成する。	
平成21年度取組方針	
研修内容の充実を図り、援農ボランティア制度の周知を行う。	
課長コメント	農業者の高齢化や後継者不足により農業の担い手が減少し、遊休農地が増加している。農業者以外の市民に補助的労働力として協力していただき、農業の継続的発展や農地の保全を図って行く。